



今回のハンガリー研修を通して学んだことは3つある。

一つ目は、バックグラウンドが異なる者同士で一つのタスクをこなすことの難しさである。私にとって一番衝撃的だったのは、ハンガリーの学生たちの成果報告会準備が、発表会前日まで終わっていなかったことである。日本人の感覚からしたらなかなか考えづらいことだと思うが、ブダペスト商科大学の佐藤紀子先生が担当された「文化の違いを越えて仕事をする」という講義で、ハンガリー人の特徴として、そういった側面があると学ぶことができたので、理解し、それを踏まえてどう計画し、プレゼンを成功させるかに注力した。今回が私にとって初めての海外渡航であったため、外国人と深く接することが初めてだった。そのためか、外国人に対してある種の先入観を持っていたのかもしれない。佐藤紀子先生も自文化の理解で、「先入観を持たないこと」と強く主張していた。このマインドは異国の方々と接するにあたって、本当に大切なことだと痛感した。

二つ目は、ハンガリーの学生たちや現地のハンガリー人の“自分のアイデンティティを貫く姿”、“周りの評価を気にせず自分の芯を持っている姿”に感銘を受けたことだ。これらの外国人の考え方はある程度知ってはいたが、実際にハンガリーの生徒や現地の

ハンガリー人と接して如実に感じた。城西大学に留学したことがあるハンガリーの生徒とこのことについて議論したが、日本人は、周りの目や他人の評価を気にしすぎだといっていた。私もこの意見に同感で、私自身も少しそういう側面があった。まとめると、これらから学んだことは、相手に合わせることも大切だが、それと同じくらい自分の意見や本音も大切であるということである。

三つ目は、自分の英語がまだまだだったということだ。ハンガリーの学生との会話を振り返ってみると、文法的なミスや単語の理解不足など多くのミスがあった。また一つの文法に頼ってしまいバリエーションが少なかったことにより会話が広がらない事があった。ハンガリーの学生は、自分が一番喋れていると教えてくれたが、この現状に満足せずステップアップして、来年城西大学に行きたいと言っていた学生たちのためにもっと流暢に話せるように精進したいと思った。

今回のハンガリー研修は非常に有意義な経験であり、今の自分に何が足りないのか教えてくれる良い機会であった。この経験を活かして、自分の将来の夢の実現と城西大学に少しでも貢献出来たらと思う。

最後にこの研修に関わったすべての先生方、事務の方々に感謝します。

